

核ミサイルから命を守る 3つのポイント

出典：二見宣(2017).「北朝鮮の核・ミサイル対処のポイント」
『安全保障と危機管理』Vol.41
一般社団法人 日本安全保障・危機管理学会26-28

1 「目」と「耳」を守りましょう!

- 核爆発は強い「閃光」と「爆風」(秒速340m)が発生します。
Jアラートが鳴ったら、堅固な建物や遮蔽物に身を隠しましょう。
- 目が不自由になると、安全地帯への避難が困難となりますので、核爆発の「閃光」と「爆風」から目と耳を保護するため、右図のようなポーズで衝撃に備えましょう。

ピカッ

※四本指で「両目を保護」し



親指で「耳穴」をふさぐ。

2 爆風と飛散物から身を守りましょう!

- 爆風はガラス片や木端等の危険な飛散物を含んで広がるため、爆風に当たると、吹き飛ばされたり、内臓に深刻なダメージを負う可能性があります。
- 木造家屋や立木の後ろ等は避け、コンクリート製の建物や、道路の側溝に避難しましょう。地下が一番安全です。
- 「ドン」と言う音や、飛散物が通り過ぎたら安全です。行政や関係機関の指示に従い、避難場所に向かいましょう。

ドン!

※爆風は3秒あたり1kmの速度で広がります。
即座に避難体制を取りましょう。



3 放射性物質を体内に入れないこと!

- 核爆発後、上空に巻き上げられた放射性物質は30分から数時間かけて地上に降ってきます。
- 空中の放射線は、7時間で10%となり、2日で1%まで減衰したら安全です。救急隊の指示があるまでは、放射線が減衰するのを待って行動しましょう。
- 放射性物質を浴びた衣服は袋に密閉して隔離し、汚染が疑われる飲食物は口にしないようにしましょう。

放射性物質を

- ★食べない ★飲まない
- ★吸い込まない
- ★傷口につけない

【特設サイト】

核ミサイルから命を守る方法



家族の安否確認方法について、話し合っておきましょう。

- 家族で落ち合う場所、方法は決まっていますか？ 広域避難場所は込み合うので、具体的な場所をしっかりと決めておきましょう。

自分の国は、自分で守ろう!

幸福実現党は、2009年の北朝鮮ミサイル発射をきっかけに立党。以来8年間、その脅威への警鐘を鳴らし続けてきました。
多数のミサイルを同時に撃ち込まれたら、今の日本の防衛システムでは迎撃不可能です。最悪の事態に備えて、「核シェルター整備」を含め「自分と家族の生命を守るための備え」を訴えています。

清潔で、勇断できる政治を。



幸福実現党

公式サイト hr-party.jp

党首 積量子



北朝鮮のミサイル着弾まで3分!?

家族の安全のために必要なこと



1 政府による警報発令

武力攻撃やテロなどが迫る、もしくは発生した地域には、原則として特別なサイレン音を使用して、注意が呼びかけられます。そして、テレビ、ラジオや広報車などを通じて、情報や取るべき行動が伝えられます。特別なサイレン音については、国民保護ポータルサイトにサンプル音を事前にお聴きください。 <http://www.kokuminhogo.go.jp/>

2 初期動作

生物・化学兵器の場合

核ミサイルの場合

<p>【屋外】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●口と鼻をハンカチで覆いながら、その場から直ちに離れ、外気から密閉性の高い室内の部屋または風上の高台など、汚染のおそれのない安全な地域に避難しましょう。 		<ul style="list-style-type: none"> ●とっさに遮蔽物の陰に身を隠しましょう。また、失明するおそれがあるので爆発した方向を見ないでください。 ●上着を頭から被り、口と鼻をハンカチで覆うなどにより、皮膚の露出をなるべく少なくしながら、爆発地点から遠く離れましょう。その際に、風下を避けて風向きとなるべく垂直方向に避難しましょう。 ●建物があればその中へと避難。地下施設やコンクリート建物であればより安全です。
<p>【屋内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●なるべく上の階の屋内へ避難しましょう。 ●汚染された衣服などを脱ぐ際には、露出している皮膚に衣服の汚染された部分が触れるおそれがあります。特に頭からかぶる服を着ている場合には、はさみを使用して切り裂いてから脱ぎましょう。 ●化学剤傷病者への治療は一刻を争います。あやしいと感じたらすぐに周囲に知らせる、速やかに警察や消防に通報するといった迅速な対応によって、その後の対処も早くなり、救命率の向上につながります。 		<ul style="list-style-type: none"> ●爆風が危険なので、地下施設があれば地下へ移動しましょう。
<ul style="list-style-type: none"> ●窓閉め・目張りにより室内を密閉し、窓のない中央の部屋に移動しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●汚染物を身体から取り除くため、衣類を脱いでビニール袋や容器に密閉しましょう。その後、水と石けんで手、顔、体をよく洗いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●安全が確認できるまでは、汚染された疑いのある水や食物の摂取は避けましょう。

3 情報収集 (テレビ、ラジオなど)



※この情報は、「内閣官房 国民保護ポータルサイト」の「武力攻撃やテロなどから身を守るために」をもとに作成しています。

どこに避難すればいい?

A. 行政機関からの避難の指示が出された場合、その指示に従って落ち着いて行動しましょう。※全国市区町村別避難場所一覧 <http://www.kokuminhogo.go.jp/hinan/>

家族安心

〇〇〇 備えあれば憂いなし! ミサイル・災害への備え

① 緊急時の連絡方法



●通話は、固定電話で

地震等の災害発生時には、音声通話が集中し、電話がつながりにくくなります。東日本大震災の発生時は、固定電話の通信規制は比較的短時間で解除されましたが、携帯電話の通信規制は断続的に数日間にわたり実施されました。

●携帯電話は災害用伝言サービスやメールを

災害時は、音声通話よりも、メール等のパケット通信の方がつながりやすい状況にあります。また、安否確認などの連絡に当たっては、災害用伝言サービスなども活用しましょう。

※「災害用伝言板」では、携帯電話等から安否情報を登録できます。携帯電話番号を入力することで全国の人が確認できます。

総務省 HP の情報をもとに作成。



② 非常用の備蓄品

●非常持ち出し品

携帯用飲料水 食品(カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど) 貴重品(預金通帳、印鑑、現金など) パスポートや運転免許証 緊急用品 ヘルメット、防災ずきん 軍手(厚手の手袋) 懐中電灯 衣類(セーター、ジャンパー類) 下着 毛布 携帯ラジオ・予備電池 マッチ、ろうそく(水にぬれないようにビニールでくるむ) 使い捨てカイロ ウエットティッシュ 筆記用具(ノート、えんぴつ)

●数日間を自足できる備蓄品(3日分が目安)

普段使っている物と同じ物を用意しておく便利です。
飲料水9リットル(3リットル×3日分) ご飯(アルファ米*)4~5食分 ※アルファ米...一度炊いた米を乾燥させたもので、お湯や水で戻せる米。 ビスケット1~2箱 板チョコ2~3枚 缶詰2~3缶 下着2~3組 衣類 スウェット上下、セーター、フリースなど さらに、新聞紙や大きなゴミ袋は、防寒や防水に役立ちますので、備えておくとよいでしょう。

「内閣官房 国民保護ポータルサイト」の「武力攻撃やテロなどから身を守るために」をもとに作成。

清潔で、勇断できる政治を。



幸福実現党

〒107-0052 東京都港区赤坂2-10-8 電話: 03-6441-0754 公式サイト hr-party.jp